

東日本 大震災と メディア

第2弾

構成

震災特番立ち上がり60分の内容構成	p48~49
フジテレビが最新ニュース制作システム「F-BINUS」で82時間ノンストップで大震災特番を放送	p50~54
東北3県の完全デジタル移行延期～アナログ放送用中継局機材は大丈夫か!?	p55

3・11から3カ月になろうとしている。被災地の瓦礫は確実に片付けられているが、近づく梅雨にヘドロの掻き出しは重い。全国から支援のボランティアが奮闘している。メディアとして、今回の震災にどう向き合ったのか。今回はテレビ放送の震災報道を考える。発生から報道特番の立ち上げを振り返った。

NHK、民放キー4局（日本テレビ、テレビ朝日、TBS、フジテレビ）

『震災特番』立ち上がり60分の 内容構成

震災発生から立ち上げた報道特番の内容構成を振り返った。そのために、東京エリアのテレビ放送全局を自動で録画できる装置「SPIDER」（スパイダー）を提供する株式会社PTPの有吉昌康代表取締役社長に電話で録画データの提供を依頼した。有吉社長は「社内に設置しているSPIDERが震災で転倒したので、録画できているかどうか。録画できていたらDVDにコピーして提供します」という返事もらった。幸いにもSPIDERはアナログ放送をしっかりと録画。NHK、民放キー局、TOKYO MXの各局、当日14時45分からおよそ60分間を送ってもらった。この録画データを再生して「震災特番立ち上がり60分」を見直した。

NHK

参院決算委員会の中継から緊急地震速報を表示、東北地方に地震があったとテロップ速報。直後、スタジオから地震情報を伝える。発生から2分後には仙台の情報カメラの映像が映し出

され、その後、スタジオと宮城・石巻、都内・渋谷、都内・新宿の情報カメラの映像が続く。緊急警報放送の「ビロビロ」音で津波警報を告知。その2分後には宮城・気仙沼の情報カメラ映像を出し、宮城県の防災担当者に電話取材。津波警報を伝え、発生から約15分後に仙台放送局、福島・郡山、JR 仙台駅、都内の発生時の映像

（VTR）を流す。

20分近く経た後、宮城・石巻、都内・台場の黒煙、気仙沼、都内へり中継（台場）とライブ映像を切り替え、途中で宮城・七ヶ浜町総務課に電話取材。

その後、30分を経過した時から、気仙沼、石巻、岩手・釜石を襲う津波を映し出し、岩手・大船